

令和3年度
「新しい学校推進 意見交換会」資料

【三川内小学校】【三川内中学校】

佐世保市教育委員会
新しい学校推進室

3

各学校の現状 及び 児童生徒数の将来推計

① 現状（令和元年5月1日現在）

小・中学校	三川内小	三川内中
児童数（令和元年5月1日現在）	187人	79人
学級数（特別支援含む）	6(8)学級	3(4)学級
建築年数	43年	55年
校舎延床面積（施設台帳より）	5,039 m ²	2,768 m ²
運動場面積	約 9,500 m ²	約 10,900 m ²
敷地面積	約 21,400 m ²	約 20,100 m ²
地区自治協議会区域	三川内	三川内

※敷地面積には山林や法面（人工的な斜面）を含めておりません。

② 三川内小学校・三川内中学校の児童・生徒数の推移

再編しない場合		
学校名	令和元年 （5月1日現在）	20年後 （2040年推計値）
三川内 小学校	187名	約150名
三川内 中学校	79名	約60名

再編した場合		
学校名	令和元年 （5月1日現在）	約20年後 （2040年推計値）
三川内義務 教育学校	266名	約210名

4

学校再編案について

目的	<p>☆9年間を見通した小中一貫教育の導入によって、両校が小規模校であることのメリットを生かしつつ、さらに児童生徒の個性や能力を伸ばす教育の充実を図ること</p> <p>☆三川内中の施設老朽化問題の解消</p>
再編案	<p>◎<u>三川内小と三川内中を統合し、義務教育学校とします。</u>（統合後の場所は三川内小）</p> <p>（理由：両校は小規模校であるため、同校種との統合により望ましい学校規模を目指すべきですが、近隣校が遠いため、児童生徒の負担が大きいと考えます。そこで、施設一体型の義務教育学校とすることで、学校全体として一定の集団規模を確保しつつ、児童生徒の個性や能力を育成したいと考えます。場所の選定理由は、三川内中より三川内小の校舎が比較的新しく、校舎延べ床面積、敷地面積ともに広いからです。）</p>
期待できる教育効果	<p>○義務教育学校という一つの学校組織及び施設一体型となることで、9年間を見通した特色ある教育活動を、緊密に連携しながら行うことができます。</p> <p>○三川内小に校舎を整備することで、より安全な環境を整えることができます。</p> <p>○統合場所を三川内小とすることで、三川内小敷地内に立地する学童保育との連携を継続することができます。</p>
留意点	<p>○小中一貫教育を導入しても、一学年あたりの小規模化という課題が残ります。</p>

- 学校小規模化対策、及び小中一貫教育導入のため、「三川内小と三川内中を義務教育学校へ統合」することについて。



三川内小学校



三川内中学校